

父親の役割に関する基礎的研究—母親の役割とも比較して—

愛育相談所 川井 尚・安藤朗子・武島春乃・永井桃子・庄司順一
研究企画・情報部 中村 敬
愛育病院心理福祉室 小玉夕香・堤 道子
嘱託研究員 恒次欽也(愛知教育大学)・渡邊 寛(彩の子ネットワーク)
大藪 泰(早稲田大学)・馬岡清人(埼玉工業大学)
鈴木眞弓(東邦大学医学部附属大橋病院)・平岡雪雄(浦安市教育委員会)
島 智久(浦安市教育委員会)・伊藤嘉余子(福島学院大学)
山岡テイ(情報教育研究所)・木邨真美(大阪府衛生会附属診療所)
古賀浩子(大阪府東大阪子ども家庭センター)
栗原佳代子(日本歯科大学)

要 約

本報告では、第一に、育児に関わると推測されるいくつかの要因に関して、パス解析による分析を行った。その際の潜在変数として、①育児、②父(母)性、③自分の親との関係、④自己像(男(女)性性を含む)、⑤夫婦関係をたて、パス解析を行った。その結果、父親も母親もほぼ同様の結果で、①父(母)性は育児に影響を及ぼし、父(母)性は男(女)性性を含む自己像や夫婦関係からの影響を受ける、②自分の親との関係は父(母)性を通して間接的に育児に影響する、③夫婦関係もまた間接的に育児に影響を与えていた。

第二に、「子どもにとって私は」という SCT の回答からテキストマイニング、主成分分析、クラスター分析の手法を通して、親たちの認識している父(母)性の導出を試みた。その結果、子どもにとって父親は、①「強く、楽しい、しかし厳しいところもあり、全体的には信頼される」男性として存在すること、子どもにとって先ず男性としての役割をとること、②「仲間、よき相談相手、理解者であり、また頼りになり支える」役割をもつこと、③子どもにとってかけがえのない存在であり、モデルともなり、そして関わり守ること、④父親は、母親に次ぐ存在として認識されていることが見出された。一方、子どもにとって母親は、「安らぎ、安全、安心、信頼、見守り、愛情で包み、大好きで優しく、かけがえのない、甘えられ、丸ごと包み込む」という「安全性」に関わる役割に集約された。ここに父親と母親の役割の相違が明らかに認められる。今後、父親・夫支援を中心にその臨床的適用のための実際的な方途を提起すべく、さらに検討を行ってきたい。

キーワード：父親の役割・父性・男性性・自分の親との関係・世代間伝達・夫婦関係・母親の役割

A Study on Paternal and Masculine Gender Role V - Basic research on paternal role: comparing it with maternal role -

Hisashi KAWAI, Akiko ANDO, Haruno TAKESHIMA, Momoko NAGAI, Junichi SHOJI, Takashi NAKAMURA, Yuka KODAMA, Michiko TUTUMI, Kinya TUNETUGU, Yutaka WATANABE, Yasushi OOYABU, Kiyoto UMAOKA, Mayumi SUZUKI, Yukio HIRAOKA, Tomohisa SHIMA, Kayoko ITO, Tei YAMAOKA, Mami KIMURA, Wakako TANIGUCHI, Hiroko YAMAUCHI, Kayoko KURIHARA

Abstract : In this report, some factors supposed to be related to the child care were analyzed by the path analysis the first. As the potential variables in that case, 1)the child care, 2) paternity(maternity), 3)relations with own parents, 4)self-image(included masculine (feminine) gender role), and 5)marital relations were chosen, and the path analysis was done. The result of fathers was almost similar to that of mothers. The results were as follows. 1)Paternity(maternity) had an influence on the child care, and the paternity (maternity) received the influence from self-image(including masculine (feminine) gender role) and marital relations. 2)The relation with own parents influenced the child care indirectly through paternity(maternity). 3) Marital relations also indirectly influenced the child care. Secondly we tried to derive what the paternity(maternity) recognized by parents were from the answer of SCT “For the child I am...” through the technique of Text Mining, the principal component analysis, and the cluster analysis. As a result, it was found that for a child 1)father takes the role as the man first, 2)the role as a good adviser, reliable and supported person, 3) father is an irreplaceable person and becomes a model, 4)father recognize himself as existence to be next to mother. On the other hand, maternal role converged on the role concerning “the security”. The difference of father and mother’s role is obviously admitted here.

Keyword : paternal role, paternity, masculine gender role, relations with own parent, intergenerational transmission, marital relation, maternal role

I. はじめに

平成13年に改正された母子健康手帳において、「父親の育児参加の促進などについての配慮」が盛り込まれ、今後乳幼児健診や育児相談の場での父親（夫）支援が重要な課題となる。これに応えるための有用な研究知見を得ることに本研究の意義が認められる。また、母親が仕事を持つことは、単に経済的理由のみではなく、社会的な存在としてもありたいとの願いの表れであることはこれまでの研究から明らかである。従って、父親も母親同様「仕事と家庭の両立」を求められている。このことも含め、父親が母親と共に育児・家事、家庭生活にその役割を充分果たしていく、その基本的役割とは何か、そして、その役割を果たすための成立要因及びその阻害要因を明らかにすることは極めて重要な課題である。

本研究の最終研究目的は、父親（夫・男性）の基本的役割を明確にすることにある。下記に詳述するが、これまで、父親・男性研究を重ね、得られた知見を吟味すると、その基本的役割とは、＜父親・夫・男性＞—＜母親・妻・女性＞—＜子ども＞の3者関係、この関係性そのもののなかにあると考えられる。この関係性そのものを明らかにすべく研究をすすめているところである。

われわれのこれまでの研究報告で明らかにされた諸知見を下記にまとめる。

1. 多肢選択式の単純集計による父親・母親の比較から

1) 夫よりも妻の方が、「母親固有の役割」を認識している。即ち夫は、父親固有の役割の認識が妻のそれよりも低い。

2) 最も大事にしたいことについて、夫は「人間としての生き方」をより選択し、妻は「私個人としての生き方」をより選択している。

3) 妻の方が母親として苦悩することが父親のそれよりも強く、母親の育児の困難さを示し、育児不安の発生に関与している。

4) 父親の役割について、妻は「私の相談相手・精神的な支え」を強く求め、一方、夫は妻が求めるほどこの役割を認識していない。このことも母親の育児不安の発生の要因である。

2. 父親用文章完成法検査（以下、F・SCT）の分析結果から

1) F・SCTの反応分類とその頻度の傾向、2) F・SCTの領域間の相関関係、3) 選択式質問項目とF・SCT項目とのクロス集計からの関係、4) データマイニング手法（パーティション法）による、F・SCTの項目間の関連についての分析を行い、父親・男性の本態に関してある程度の知見が得られた。箇条書きにすると、

1) 各領域ごとにみたところおおむね叙述・考え方が多く、父親・男性の一般的傾向を示すものと考えられた。ただし、領域IV「父親自身の親子関係」のみ関係性が多かった。

2) 各領域ならびに合計点間で相関係数を検討したところ、領域I「育児を含む父子関係」、II「家族・夫婦関係」、

III「父親自身・男性性」の3つの領域間では比較的高い相関が得られた。

3) クロス集計し、統計的に有意なもののみ取り上げた。一連の結果から、子どもの心の問題は母子関係にのみ起因するものではなく、父親（夫）、母親（妻）、そして子どもという3者の関係、さらには父親（夫）自身の親子関係のありようも加わりもたらされるものと考えてよいと思われた。

4) パーティション分析全体を通して明らかになったことは、あるパターンに入る父親（夫）たちが心の臨床からみて要注意であり、援助の必要性が示された点であった。また、男性像の認識が家族像、自己の将来像、夫婦関係、子どもとの関係に影響する一要因となり得ることが示唆された。

3. 母親用文章完成法検査（以下、M・SCT）の分析結果から

分析方法は、1) M・SCTの反応分類とその頻度の傾向、2) M・SCTの領域間の相関関係、3) 選択式質問項目とM・SCT項目とのクロス集計からの関係、これらを前年度の父親F・SCTの結果とも比較しながら検討を行い、母親・女性の本態に関しての知見をまとめると、

1) 2. で述べたように、F・SCTでは各領域ごとにみたところおおむね叙述・考え方が多かったが、M・SCTでは情緒性や関係性に基づく回答が多い傾向にあった。主観的な回答が多いことが母親・女性の特徴と思われる。

2) 各領域ならびに合計点間で相関係数を検討したところF・SCTでは相互間の相関が高かったがM・SCTでは比較的低い傾向にあり、母親の反応の多様性が指摘された。

3) クロス集計し、統計的に有意なもののみ取り上げた。一連の結果から、母子関係のありようは自己の両親との関係とも深く関連していることが推測された。これは昨年度の父親に関しても見出されたものであり、重要な知見であるといえよう。

II. 研究目的

今年度は因果分析の一手法といわれる共分散構造分析からパス解析ならびに自由回答文などの分析手法として知られるテキストマイニングを用いて父親観、母親観について分析を行い、ある程度の知見が得られたので報告する。

III. 研究方法

1. 調査方法

従前より報告しているようにF・SCTならびに、その妻版にあたるM・SCTを使用した。F・SCTは32項目であり、5領域から構成されていて、その領域は、I. 育児を含む父子関係（12項目）、II. 家族・夫婦関係（7項目）、III. 父親自身・男性性（9項目）、IV. 父親自身の親子関係（2項目）、V. 社会（友人・仕事）（2項目）である。また、選択肢式質問項目はI. 父親（夫）の役割、2. 子どもとの関わり・子

育て、3. 両親との関わり、4. 両親の親としてのあり方、5. 大事にしたい生き方、6. 夫、父親としてのあり方、7. 夫・父親役割(選択肢は10項目あり、そのうちの2つまで選ぶ)である。

主に東京、秋田、埼玉などの各地の幼稚園、保育所等を通して配布し、回収した。回答する際にはとくに両親が相談したり、見せ合うことなく単独に回答するように求めた。

配布数は正確につかめないところもあるがおおむね回収率は80%程度である。

2. 調査対象者とその属性

調査対象はおもに、幼稚園、保育所等に通所する児をもつ親である。なお、今回分析の対象としたのは、年齢が乳幼児を有する親であり、かつ、両親がペアで回収できたものの448組である。これは全体回収数の45.5%である。ペア回収数が少ないが年齢対象外を全体から外すと63.1%がペア数となる。

対象者の属性は夫の平均年齢35.4歳(SD±5.7, 以下()内SD)、妻33.1歳(±4.6)、子どもの平均数は1.7人、夫の平均週労働時間50.7時間(±13.2)、妻は33.2時間(±14.7)、夫の勤務形態は主に日勤90.3%、妻の仕事では主婦が60.9%、常勤21.3%、パート・アルバイト9.4%、自営業3.6%、休職中2.2%などであった。夫の再婚者は5.6%、妻は2.7%である。夫の両親ともに健在なのは73.8%、妻は77.9%だった。ボランティアなどをしている夫は13.1%、妻は10.6%であり、子どもたちの中で入院経験がある家庭は34.2%、未熟児出生は9.3%、発達に遅れがあるのは3.2%(ただし、夫の回答は2.7%)であった。

3. 整理方法

本報告に関わる分析方法について簡単に述べたい。

1) 潜在変数によるパス解析

① 潜在変数の設定

潜在変数をたててパス解析(Spss社製Amos6.0)検討を行った。潜在変数は、直接観察される変数を基にした構成概念と考えてよい。今回は、パス図には「父(母)性」「育児」「夫婦関係」「自分の親」「自己像(男性性または女性性を含む)」と略記してあるが、いずれも直接観察のできない構成概念である。これらを潜在変数と称する。「父(母)性」はsct14「子どもがいると私は」sct18「子どもにとって私は」の2項目、「育児」はsct05「しつけ」sct26「子どもがいうことをきかないと」の2項目、「夫婦関係」はsct04「妻(夫)と私は」sct32「妻(夫)とふたりでいると」の2項目、「自分の親」はsct08「母と私は」sct24「父と私は」の2項目である。また、「自己像」は、sct16「私は男(女)として」sct03「将来、私は」の2項目であり、「男(女)性性」を含む自己像を示している。

今回の分析では「社会・仕事」に関わる領域もほとんど各要因との関連が認められなかったことで、さらに、上に述べた潜在変数を構成する項目は本来多いが分析の過程で有意でないものなどはずしていった結果、選択したものである。なお、パス図内の○で囲まれたe+数字は誤差を

意味する。(パス図については以下同様)

② パス図について(変数間の因果関係仮説)

今回の目的は「育児」に影響を与える要因の検討である。それを示したのが図1(F・SCT)と図2(M・SCT)でパス図は同一である。「育児」に影響を与える要因は複数あると考えるのが一般的であるが、「父(母)性」の「育児」への影響を検討するのが主目的である。そして、「父(母)性」は「自己像(男性性または女性性を含む)」「自分の親」の影響を受けていると考えられる。「夫婦関係」は「自分の親」「自己像(男性性または女性性を含む)」の影響を受けると考えられる。ただし「夫婦関係」が「父(母)性」「育児」へパスがつながっていないのは、試行分析の結果パス解析の適合度・推定値などが不十分になるからである。

2) テキストマイニング

SCT18の「子どもにとって私は」を取り上げて、父親観、母親観についてテキストマイニングの手法を用いた検討を行った。この項目を取り上げたのはほかの項目に比べて、どのような父親であるか、母親であるかの問いであり、父親観、母親観が表出されやすいと考えたからである。

テキストマイニングの手法として、次の手順を踏んで行った。

① SCTの回答をそのままエクセルに入力した。それを「茶筌」(奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科自然言語処理学講座(松本研究室)開発)というこの領域では定評のあるソフトウェア(Chasen for Windows 2.3.3)を用いて文章を分かち書きし、形態素に分類した。この形態素とは表層語(原文から導き出される分かち書きされた要素)から推測されるその語の基本形のことである。これは品詞によって分類される。たとえば、原文の「守って」は「守っ」「て」と2つの表層語に分解される。そして「守っ」の品詞は「動詞-自立」,「て」は「助詞-接続助詞」であり、形態素は「守る」「て」になる。

② このようにして「茶筌」により分類されたものを用いてさらに、抽出語の中から次の7つの品詞だけを採択することを原則とした。その根拠は林(2002)によると、品詞の中では「形容詞-自立」(例:こわい)「形容詞-接尾」(例:(怒り)っぽい)「形容詞-非自立」(例:(○○であって)ほしい)「名詞-サ変接続」(例:存在)「名詞-一般」(例:父親)「名詞-形容動詞語幹」(例:たいせつ(な))「名詞-固有名詞語幹」の7つに属する形態素が必須のものであるとしていることによる。本稿はこれに基づいて分析語の採択-不採択を決める原則とした。ただし、不採択の語であっても次のような語、「頼れる」「守る」「教える」「おこる」「育てる」「甘える」「接する」など、親子関係に深く根ざしたと考えられる語彙群は採択した。さらに、同意義と思われる語は原文のニュアンスが保持される限りにおいては語彙を統一した。たとえば、「父親」と同意義と考えられる「パパ」「おやじ」「お父さん」などである。機械的に分析するのではなく、原文一つ一つについて検討を加え、必要に応じてリファインを行った。また、こうした作業により

採択された語でも頻度が2回以下の語彙は分析対象から外した。これは頻度2回以下の語彙を含めると膨大な量となり、また、分析精度も低下するためである。

③ 主成分分析 (Spss for Windows v14.0) によって得られた2次成分までについてクラスタ分析 (SAS 社製 JMP v6.0) を行い、デンドログラムを描き、所属クラスタを抽出した。

④ ③の資料に基づき、語彙の布置関係から父親の役割観、母親の役割観を検討することにした。

IV. 結果及び考察

1. 潜在変数によるパス解析

直接観察されない潜在変数をたてての検討を行った。潜在変数は直接観察される変数を基にした構成概念と考えてよい。今回は、パス図には「父(母)性」「育児」「夫婦関係」「自分の親」「自己像(男性性または女性性を含む)」と略記してあるが、いずれも直接観察のできない構成概念である。構成する項目群は前節の整理方法に詳述した。

1) F-SCTについて(表1-1から1-4並びに図1参照)

ここでは、潜在変数間の関係について述べたい。「育児」は「父性」からパスを受けている。表1-1をみると、「父性」からは.898、他の標準化係数に比して「父性」からの影響が大きく関与していることが分かる。

「父性」は「自分の親」.431、「自己像(男性性を含む)」.427「夫婦関係」.139であり、「自分の親」「自己像(男性性を含む)」の影響を受けていることが分かった。「自分の親」には「父と私は」が含まれていること、「自己像(男性性を含む)」には「私は男として」が含まれていることによって了解される結果である。

「夫婦関係」は「自己像(男性性を含む)」で.393「自分の親」.320で、ほぼ同程度の影響が認められる。

標準化間接効果係数(図1の点曲線)について主な結果をみると(表1-4)、「自分の親」→「父性」→「育児」=.546、「自己像(男性性を含む)」→「父性」→「育児」=.432、「自分の親」→「自己像(男性性を含む)」→「夫」=.108であった。

「自分の親」の影響は「父性」を経由しながら「育児」に影響を与えていることが考えられる。先に述べたとおり、「父性」は「自分の親」との直接効果も高いので当然とも言えるが、この知見は重要である。

表1-1 標準化係数(夫・父親)

	推定値
自己像 (男性性を含む) ← 自分の親	.275
夫婦関係 ← 自分の親	.320
夫婦関係 ← 自己像 (男性性を含む)	.393

	推定値
父性 ← 自分の親	.431
父性 ← 自己像 (男性性を含む)	.427
父性 ← 夫婦関係	.139
育児 ← 父性	.898

注: ←:パスの向かっている←の方向

推定値はいずれもWald検定で有意(P<.05)

表1-2 CMIN モデルの適合性

モデル	NPAR	CMIN	自由度	確率	CMIN/DF
図1	37	26.207	28	.562	.936
飽和モデル	65	.000	0		
独立モデル	20	278.047	45	.000	6.179

注:モデル図1:本分析のモデル

飽和モデル:データにもっとも適合したモデル

独立モデル:観測変数間に相関がないことを仮定したモデルで当てはまりの悪いモデル

モデル図1の適合性は、NFI、CFIのスコアが飽和モデル(1.000)に近いので適合度が高いと言える。

表1-3 基準モデルとの比較

モデル	NFI	RFI	IFI	TLI	CFI
	Delta1	rho1	Delta2	rho2	
図1	.906	.849	1.007	1.012	1.000
飽和モデル	1.000		1.000		1.000
独立モデル	.000	.000	.000	.000	.000

表1-4 標準化間接効果係数

	自分の親	自己像 (男性性を含む)	夫婦関係
自己像 (男性性を含む)	.000	.000	.000
夫婦関係	.108	.000	.000
父性	.177	.054	.000
育児	.546	.432	.124

注:1:自分の親→父性→育児=.546

2:自己像(男性性を含む)→父性→育児=.432

3:自分の親→自己像(男性性を含む)→夫婦関係=.108

2) M-SCTについて(表2-1から2-4並びに図2参照)

「育児」は「母性」からパスを受けている。表2-1をみると、「母性」からは.621の影響があることが分かる。

「母性」は「自己像(女性性を含む)」.503、「夫婦関係」.-208、「自分の親」.594、すなわち「自分の親」、次いで「自己像(女性性を含む)」の影響を受けていることが分かった。やはり、「自分の親」の影響が「母性」にとって大きいことは注目される。が「自己像(女性性を含む)」もまたそれに劣らぬ影響があり、とりわけ「自己像(女性性を

含む)」を構成する「私は女として」という女性性に関わる要因が大きいものと推測される。

「夫婦関係」は「自己像（女性性を含む）」「自分の親」からのパスを受けていて、前者の標準化係数は.492、後者のそれが.119で、「自己像（女性性を含む）」からの影響が認められた。

「自己像（女性性を含む）」は「自分の親」からのパス係数は.613と大きい。これは「自己像（女性性を含む）」に「私は女として」が「自分の親」に「母と私は」がそれぞれ含まれていることとつながりがあるのだと思われる。

標準化間接効果係数についてみると、「自分の親」→「母性」→「育児」では.506、で高かった。また、「自己像（女性性を含む）」→「母性」→「育児」.249であった。このことからこの二つのパスに関してはある程度、間接効果が認められることがわかった。とりわけ、「自分の親」→「母性」→「育児」では、先に述べたように「自分の親」→「母性」との間の直接効果も大きいことから予想の範囲内のことであるといえ重要なことである。

3) F・SCT と M・SCT との比較

1) と 2) の結果からほぼ同様の傾向が伺われた。すなわち、

- ①. 「父（母）性」は「育児」への影響が大きいこと、
- ②. 「自分の親」は「父（母）性」を通して「育児」への間接効果が認められること、
- ③. 「父（母）性」は「夫婦関係」よりも、「自己像（女性性を含む）」や「自分の親」からの影響が大きいことなどがわかった。

④. 「自分の親」と「自己像（女性性を含む）」では、M・SCTの場合、直接効果が大きかったが、F・SCTではそれほどでもなかった。これは「女-女」つながりと「男-男」つながりの形成の違いをうかがわせる。

これら一連の結果から、「育児」は「父（母）性」や「自分の親」との関連が大きいことが推測されたという点で注目すべき知見が得られたといえる。

標準化間接効果を見ると、男性性を含む自己像、父性、育児の係数を、女性性を含む自己像、母性、育児のそれとを比べるとF・SCTの方がM・SCTよりも係数が高い。このことは父親の場合には父性や育児には父親の男性性が大きく関与していると考えられる。

表 2-1 標準化係数(妻・母親)

		推定値
自己像 (女性性を含む)	← 自分の親	.613
夫婦関係	← 自分の親	.119
夫婦関係	← 自己像 (女性性を含む)	.492
母性	← 自分の親	.594
母性	← 自己像 (女性性を含む)	.503

		推定値
母性	← 夫婦関係	-.208
育児	← 母性	.621

推定値はいずれもWald検定で有意 (P<.05)

表 2-2 CMIN モデルの適合性

モデル	NPAR	CMIN	自由度	確率	CMIN/DF
図 2	37	35.492	28	.156	1.268
飽和モデル	65	.000	0		
独立モデル	20	283.782	45	.000	6.306

注：モデル図2：本分析のモデル

飽和モデル：データにもっとも適合したモデル

独立モデル：観測変数間に相関がないことを仮定したモデルで当てはまりの悪いモデル

モデル図2の適合性はNFI, CFIのスコアが飽和モデル(1.000)に近いので適合度が高いと言える。

表 2-3 基準モデルとの比較

モデル	NFI	RFI	IFI	TLI	CFI
	Delta1	rho1	Delta2	rho2	
図 2	.875	.799	.971	.950	.969
飽和モデル	1.000		1.000		1.000
独立モデル	.000	.000	.000	.000	.000

表 2-4 標準化間接効果係数

	自分の親	自己像 (女性性を含む)	夫婦関係
自己像 (女性性を含む)	.000	.000	.000
夫婦関係	.301	.000	.000
母性	.221	-.102	.000
育児	.506	.249	-.129

注：1：自分の親→母性→育児=.506

2：自己像（女性性を含む）→母性→育児=.249

3：自分の親→自己像（女性性を含む）→夫婦関係=.301

2. テキストマイニングによる分析

sct18「子どもにとって私は」に関してテキストマイニングによる分析を行った結果について述べる。

1) F・SCTについて

テキストマイニングにより63個の語彙(表3)が抽出された。この資料について主成分分析を行い、2次までの主成分得点についてクラスタ分析(Ward法)を行いデンドログラムを描きこれを図3に示した。図にはそれぞれ吹き出しをつけて各クラスタが意味するところを記載した。

図3に基づいて、各語彙の所属クラスタについて述べる。各語彙のクラスタは7つのクラスタに分けられた(表3参照)。下記の項目記号(aからf)は、図3の吹き出しと対

応している。

a. 強く、楽しく、しかし厳しいところもあり、全体的には信頼される男性性：「男、信頼、強い、楽しい、厳しい、立場」

男性像を示したものと見える。「強い、楽しい」が「厳しい、立場」にくくられ、さらに「男、信頼」によってくくられている。これら全体として男性としてのモデルの有り様を示したものと考えられる。言いかえれば父親達が考える男性観といっても良いかもしれない。

b. 仲間であり、良き相談相手、理解者としての父親：「良い、相談、友達、理解者、甘い、人生、手本、こわい、おこる、頼れる、支え、遊び友達、遊び相手、役割、意識、見本、先輩、少ない、お手本、感じ、うるさい、大好き」ならびに「父親」

「良い、相談」が「友達」としてくくられたもので良き相談相手＝友達ということであろう。「人生、手本」が「こわい」に、さらに「甘い」が「理解者」としてくくられている。人生のお手本となる子どもへの理解者となる。

「遊び友達、遊び相手」＝「頼れる、支え」で、「役割として」くくられ、そして「おこる」でまとめられる。遊び相手・友達であり、支える頼りのある役割とともに、それだけでなくおこる存在でもある。「お手本、感じ」＝「先輩、少ない」が「うるさい、大好き」でくくられ、さらに「意識、見本」で大きくくくられた。

これをまとめれば、「仲間であり、良き相談相手、理解者としての父親」ということができる。なお、「父親」がひとつのクラスタになっているが、これは「父親」によってこのクラスタが大きくくくられることである。むしろ、これ以降のクラスタも父親に深く関わることであるが、これまでの語彙群が「父親」が主語となって語られるものである点において注目すべき結果である。

c. 父親として大きくかけがえのない存在、ともに成長し、人としてのモデルともなり、関わり守る父親：「大きい、かけがえ、ない、必要、遊ぶ、欲しい、教える、関係、守る、人、目標、尊敬、仲間、成長、家、大人、人間、ほしい、子ども、大切、先生、優しい」

「大きい、かけがえ」が「ない」つまり「大きい、かけがえない」が「必要、遊ぶ」にくくられ、さらに「欲しい、教える」とさらにくくられる。「仲間、成長」が「目標、尊敬」にくくられ、「関係、守る」が「人」にくくられ、これが前者の語彙群によってくくられる。「家、大人」が「人間」により、さらに「ほしい」でくくられた。「大切、先生」が「子ども」にくくられ、さらに「優しい」でくくられた。

これらがまとまって一つの大きなクラスタとなり、「父親として大きくかけがえのない存在、ともに成長し、人としてのモデルともなり、関わり守る父親」となるといえる。

d. 遊び相手：「相手、遊び」

父親としての役割、遊び相手が一つのクラスタとなってまとまった。

e. 母親に次ぐ存在：「多い、母親、妻、次」

「妻、次」が「多い、母親」でくくられた。母親に次ぐ存在として位置づけられたものである。

f. 子どもにとって大事な、そして関わり接する存在：「接する、認識、存在、大事、自分、一緒」

「大事、自分」が「存在」でくくられ、さらに「一緒」にそして、「接する、認識」でくくられる。

子どもにとって大事な存在であり、関わり接する存在といえることができる。

2) M・SCTについて

F・SCT同様の分析、テキストマイニングにより75個の語彙(表4)が抽出された。この資料について主成分分析を行い、2次までの主成分得点についてクラスタ分析を行いデンドログラムを描きこれを図4に示した。

図4に基づいて、各語彙の所属クラスタ(8個のクラスタ)について述べる。下記の項目記号(AからG)は、図4の吹き出しと対応している。

A. 安らぎのある身近な母親：「そば、心、身近、安らぐ」

「そば、心」が「身近」でくくられ、さらに「安らぐ」でくくられ、「安らぎのある身近な母親」という像が浮かび上がる。

B. 安全・安心・信頼感を生み出す母親像：「暖かい、さみしい、存在、頼れる、ほしい、安心」

「暖かい、さみしい」は「存在」でくくられ、「頼れる、ほしい」は「安心」でくくられる。まとめれば「安全・安心・信頼感を生み出す母親像」ということができる。

C. 子どもを大きく見守り、理解者として、あるいはいつも一緒にいて信頼され、子どもを愛情で包み、安らぎをあたえる母親：「他、大人、大きい、仲良い、かあさん、見守る、理解、人間、愛情、小さい、自分、感情、子、不安、手本、欲しい、親、幸せ、感じ、がんばる、好き、楽しい、口うるさい、心配、大事、一緒、守る、生活、信頼、安らぎ、大切」

「大人、大きい」が「仲良い」と、「かあさん、見守る」とがくくられ、さらに、「理解」とくくられて、それを「他」が大きくくくっている。この「他」とは「他」の人とは異なる、「他」には考えられないなど、「他」以下のクラスタを強調する働きを持った言葉である。

「小さい、自分」は「人間、愛情」でくくられ、「欲しい、親」は「手本」と、「子、不安」がくくられ、「感情」でくくられる。

「幸せ、感じ」が「がんばる、好き」とくくられ、これが「口うるさい、心配」とが「楽しい」にくくられる。

「生活、信頼」が「守る」でくくられ、「安らぎ、大切」でくくられる。これが「大事、一緒」と大きくくくられた。

これらがおおきなクラスタを形成しており、「子どもを大きく見守り、理解者として、あるいはいつも一緒にいて信頼され、子どもを愛情で包み、安らぎをあたえる母親」という母親像を示した。

D. うるさいけれど、大好きで優しく尊敬されるかけがえ

のない存在：「かけがえ，必要，うるさい，イヤ，大好き，尊敬，場所，不可欠，優しい，女性，友達，厳しい，唯一，顔，多い」

「うるさい，必要」は「かけがえ」でくられ「イヤ，大好き」でくられ，さらに「尊敬，場所」が「不可欠」でくられた。

「女性，友達」と「優しい」がくられ，「厳しい，唯一」が「顔」にくられ，さらに「多い」でくられて，これらがひとまとまりとなった。

そして全体としては，「うるさいけれど，大好きで優しく尊敬されるかけがえのない存在」が示された。

E. 子どもが甘えられる存在：「困る，うれしい，父親，親友，甘える，おこる，話せる」

「父親，親友」が「甘える」にくられ「うれしい」にくられる。これが「おこる」に，さらに「話せる」でくられ，大枠を「困る」がくっている。これは「子どもが甘えられる存在」という母性を示したのとなっている。

F. こわい存在でもあるが，よき遊び相手：「遊び，遊ぶ，相談，相手，こわい，良い，母親」

「遊ぶ，相手」を「遊び」が，さらに「相手」がくくる。これを「こわい，良い」がくくり，さらに「母親」がくくっている。「こわい存在でもあるが，よき遊び相手」といえる。

G. 子どもをまるごと包み込む存在：「気持ち，人，子ども，だっこ，気持ち」

「人，子ども」を「気持ち」がくくって，それらと「だっこ，気持ち」とがくられた。「子どもをまるごと包み込む存在」として母親観をとらえている。

V. 結語

以上の分析から父親に関する主な知見をあげ，母親の知見との比較を含め以下に述べる。

1. パス解析から

1) 父親の育児は父性から最も大きな影響を受けている。そして，その父性は自分の親との関係，男性性を含む自己像から影響を受け，また，夫婦関係の影響も見られる。従って，父親の育児には父性が中核を占め，そこに自分の親，男性性を含む自己像，夫婦関係が影響を与え成立している。

2) 自分の親との関係が父性に影響を与え，父親の育児に結びついているという知見は，親子関係の世代間伝達の観点からその重要性が指摘される。

3) 夫婦関係も間接的に父親の育児に影響を与えている。そして，この関係に男性性を含む自己像，自分の親との関係が関与しているところから，夫婦関係のありようをこの観点から検討する必要性が認められる。

4) 母親のパス解析は，父親と同様の知見を示し，いわば親として育児をめぐっての基本的な成立要因は同一であるといえ，このことは重要な知見といえる。

5) 標準化間接効果をみると父親の男性性を含む自己像

→父性→育児の係数が，母親のそれよりも高いことが認められた。このことは育児，父性に男性性が大きく関与していると考えられ，父親が育児にその役割を果たすために男性性が重要な要因であることを示した。

2. テキストマイニングによる分析から

1) 子どもにとって父親は，「強く，楽しい，しかし厳しいところもあり，全体的には信頼される」男性として存在している。言い換えれば子どもにとって先ず男性としての役割をとるといってよく，父親の役割は上述の知見にもあるように男性性と強く結びついている。

2) 子どもにとって父親は，「仲間，よき相談相手，理解者であり，また頼りになり支える」役割をもつことが示された。

3) 子どもにとって大きくかけがえのない存在であり，モデルともなり，そして関わり守るという父親の役割が示された。

4) 注目すべきことは，子どもにとって父親は，母親に次ぐ存在として認識されていることである。先ず母親ありきであり，母と子の結びつきの強さとの関連が考えられる。

5) 一方，母親についてみると，AからGまで7つのクラスタに分かれるものの，基本的に共通しているものは「安全性」という母子関係の基本的機能が示されていることである。母親達が抱く共通の認識がその表現の仕方の相違として現れたとも言えるものであり，即ち，母親は子どもにとって「安らぎ，安全，安全，信頼，見守り，愛情で包み，大好きで優しく，かけがえのない，甘えられ，丸ごと包み込む」という役割に集約される。そして，ここには情緒的なものが多く含まれ，いわば attachment — affectional tie といわれるものである。この安全性に関わる役割について，父親にも上記2)の頼りになり支える，3)の関わり守る，にみられるものの大きなウエイトは有しておらず，ここに父親と母親の役割の相違が明らかに認められる。

父性<子どもとの関係>は，ここに記述したように多くの要因から影響を受けて成立していること，そして，このような経路を辿り育児に至ることが示された。また，父親の育児は，父性と自分の親との関係が大きいことが認められた。しかも，父性を通しての間接効果が認められた。また，自己像を含む男性性もまた，父性を通して育児に影響を与えている。

育児に果たす父親の役割に最も影響を与えているものは，父性である。そして，自分の親との関係が父性の形成に影響を与えている。従って，父性を育てるものは，妻との関係は無論のことであるが，はじめは自分の親との関係であり，育児に果たす父親の役割の起源がここにあるものと考えられる。このことから，当然のこととはいえ今，現在の親子関係のありようが，その子が親になったとき，その役割を生み，果たすときの重要なポイントとなることを示している。

VI. 今後の課題

今回の分析は、要因となる項目の加除やパスの経路により、モデルがさまざまに変化するものなので、さらに、有用なモデルの構築を目指したい。今回用いたテキストマイニングの手法により、男(女)性性や、夫(妻)の役割などに関しても検討していきたい。

今後は、本年度までに得られた研究知見を検討、吟味し最終的に育児を中心としながら家庭における父親・夫の役割を明らかにし、それに基づいた父親・夫支援を中心にその臨床的適用のための実際的な方途を提起したい。

この課題に応えることが、小児に関わる保健・福祉に貢献し、且つクローズアップされている子ども虐待、DVあるいは父親の育児不安などの緊急且つ重要な臨床問題に有用な知見とそのための現実的な支援・援助をもたらすものとする。そのためにこれらの研究知見に基づき、かつて我々が検討してきた母親の育児不安の研究をもとにしながら「父親の育児不安」の検討を行っていきたい。

謝辞 本研究をすすめるに当たりご協力いただいた各地域の小児科、保育園、幼稚園の先生方、そして、お父さん、お母さんたちに深く謝意を表したい。

文献

1. 川井 尚ほか：父親・男性研究Ⅰ－父親用文章完成法(F・SCT)の作成－，日本子ども家庭総合研究所紀要，第38集，203-215，2002.
2. 川井 尚ほか：父親・男性研究Ⅱ－両親の回答比較から－，日本子ども家庭総合研究所紀要，第39集 203-215，2003.
3. 川井 尚ほか：父親・男性研究Ⅲ－F・SCT(父親用文章完成法)による検討－，日本子ども家庭総合研究所紀要，第40集 ，2004.
4. 川井 尚ほか：父親・男性研究Ⅳ－M・SCT(母親用文章完成法)による検討F・SCT(父親用)との比較を含めて－，日本子ども家庭総合研究所紀要，第41集，2005.
5. 育児における父親の役割に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるにあたっての母子保健事業策定に関する研究」(平山宗宏主任研究者)平成元年，2年，3年度研究報告書
6. 育児における父親の役割と保健指導に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」(日暮真主任研究者)平成4年，5年，6年度研究報告書
7. 川井尚：育児における父親の役割，小児保健研究，1992;51(6):671-680
8. 川井 尚：父親面接.心と体の健診ガイドー幼児編ー.日本小児科学会・日本小児保健協会・日本小児科医会編.日本小児医事出版社. 57-60. 2000

9. 林 俊克：Excelで学ぶテキストマイニング入門，オーム社，2002.

10. 藤井 美和ほか：福祉・心理・看護のテキストマイニング入門，中央法規出版，2005

※日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所 母親用育児不安評定尺度「子ども総研式・育児支援質問紙」(0~11ヶ月，1歳児用，2歳児用，3~6歳児用)

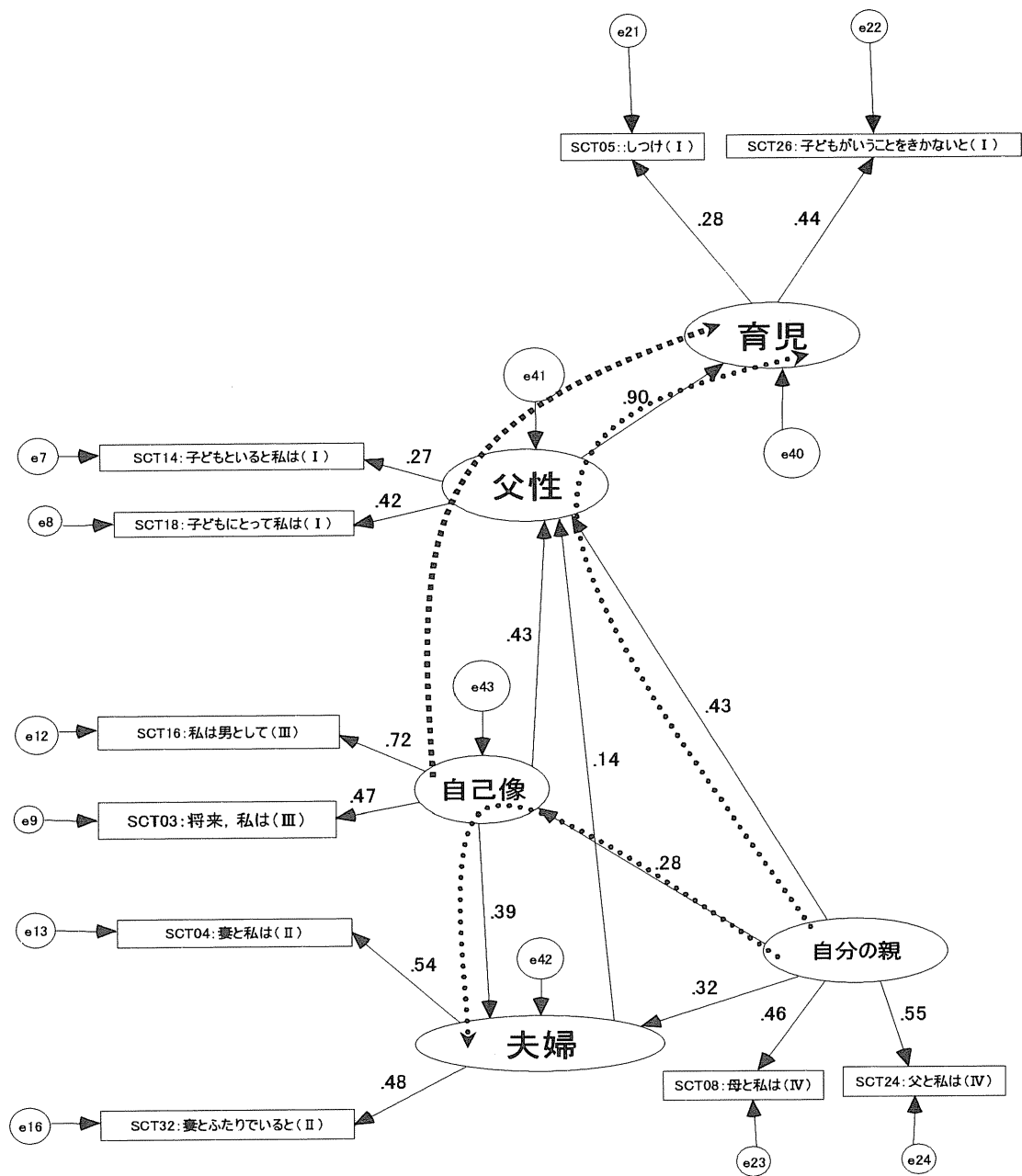


図1 F・SCTに関するパス関連図

注1：主な間接効果（点曲線）

1：自分の親→父性→育児=. 546

2：自己像（男性性を含む）→父性→育児=. 432

3：自分の親→自己像（男性性を含む）→夫婦関係=. 108

注2：パス（→）上の推定値は小数点3桁で四捨五入小数点2桁表示 ただし、本文中では小数点3桁表示 以下同様

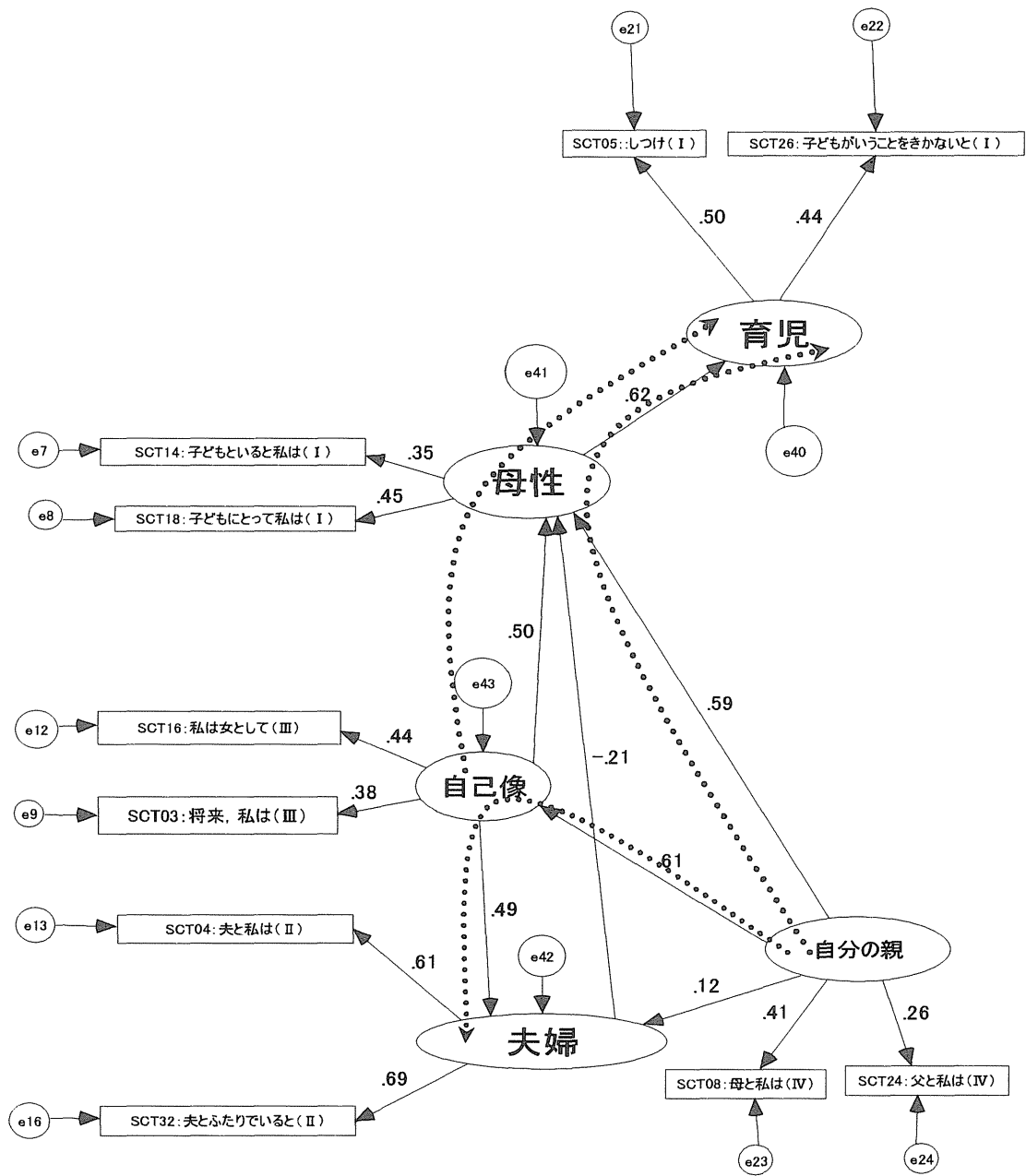


図2 M・SCTにおけるパス解析図

注：主な間接効果 点曲線

- 1：自分の親→母性→育児=. 506
- 2：自己像（女性性を含む）→母性→育児=. 249
- 3：自分の親→自己像（女性性を含む）→夫婦関係=. 301

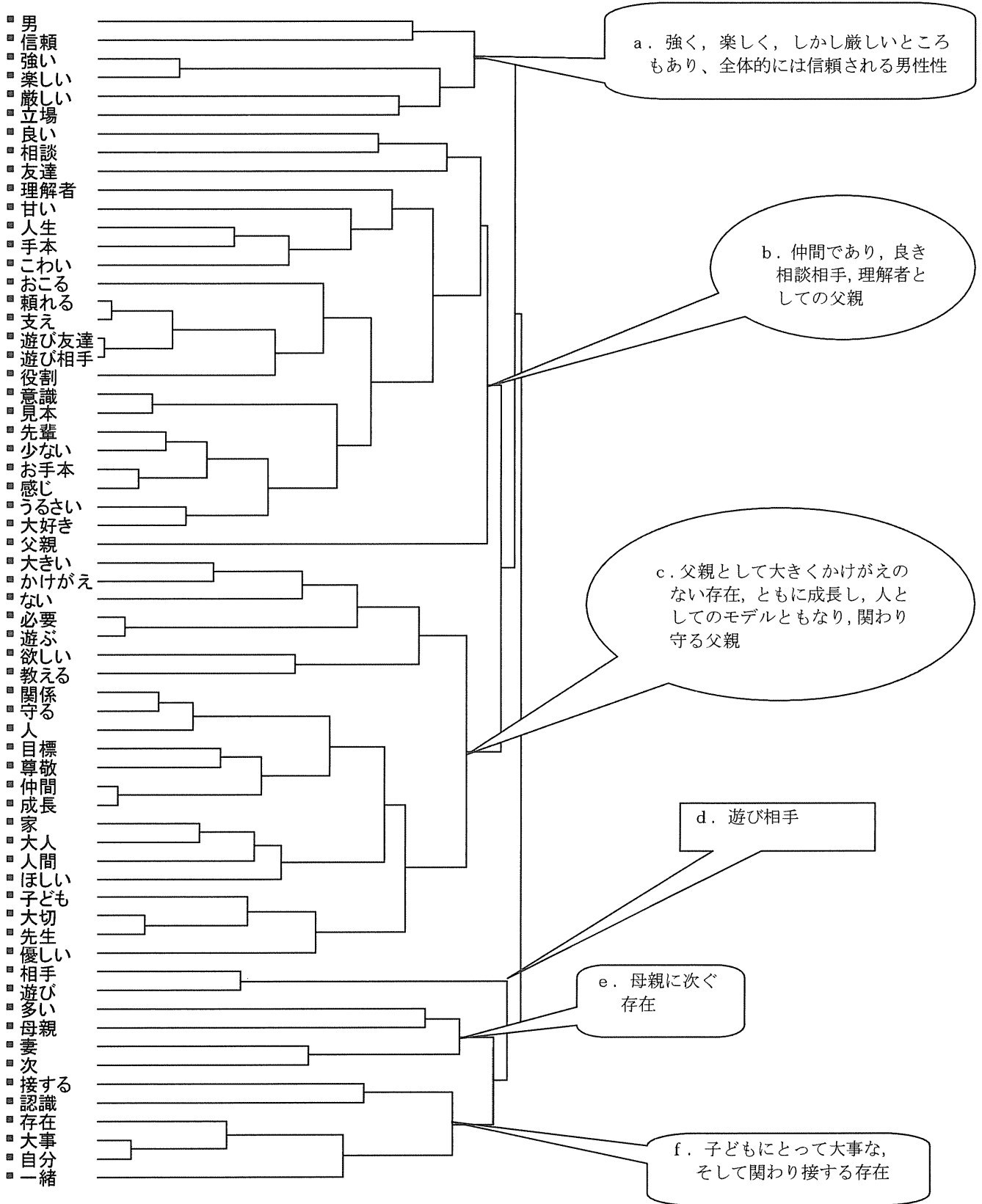


図3 Fsc18子どもにとって私は クラスタ分析によるデンドログラム

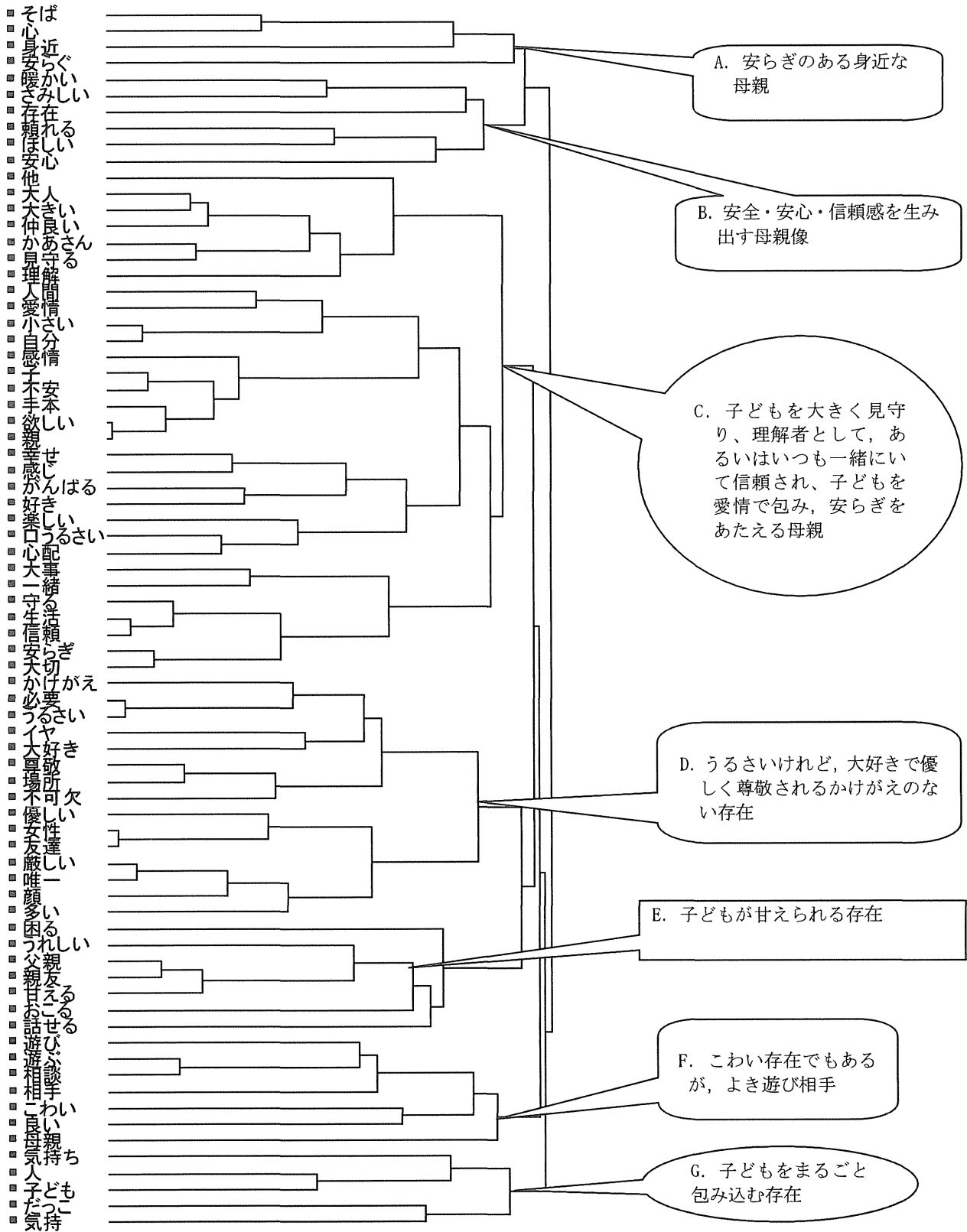


図4 Msct18子どもにとって私は クラスタ分析によるデンドログラム

表3 Fsc18 各語彙の主成分量

語彙	1次	2次	所属クラス
男	0.626923	-0.34583	1
信頼	0.623276	-0.1917	1
相手	0.506875	0.234543	2
遊び	0.491261	0.213148	2
強い	0.455898	-0.23165	1
楽しい	0.451859	-0.24661	1
多い	0.358258	0.445389	4
厳しい	0.349088	-0.29586	1
立場	0.27494	-0.19684	1
母親	0.255901	0.580256	4
良い	0.202075	-0.0356	3
接する	0.182074	0.264919	6
認識	0.174313	0.362061	6
友達	0.145713	-0.17365	3
相談	0.128392	0.049434	3
妻	0.113731	0.451711	4
次	0.108178	0.494479	4
存在	0.057241	0.312068	6
大事	0.051883	0.329238	6
自分	0.044536	0.330088	6
理解者	0.043286	-0.06707	3
一緒	0.027276	0.269751	6
おこる	0.01826	0.01709	3
頼れる	-0.00746	-0.00564	3
支え	-0.01063	-0.011	3
遊び友達	-0.01969	-0.0114	3
遊び相手	-0.01969	-0.0114	3
意識	-0.0227	-0.03557	3
見本	-0.0258	-0.0453	3
役割	-0.03077	0.009948	3
甘い	-0.03211	-0.12913	3
先輩	-0.0364	-0.02372	3
大きい	-0.04073	0.0785	5
人生	-0.04273	-0.06618	3
お手本	-0.04416	-0.01545	3
父親	-0.05067	-0.36923	7
少ない	-0.05129	-0.02848	3
感じ	-0.05204	-0.01292	3
ない	-0.05245	0.120235	5
かけがえ	-0.05312	0.094409	5
うるさい	-0.05966	-0.00355	3
手本	-0.06001	-0.05078	3
大好き	-0.06574	-0.01959	3
こわい	-0.06585	-0.08723	3
関係	-0.07394	0.043119	5
目標	-0.07796	0.00313	5

仲間	-0.07824	0.024998	5
人	-0.08353	0.057958	5
成長	-0.08457	0.027483	5
守る	-0.08789	0.043503	5
子ども	-0.08995	-0.02286	5
必要	-0.09042	0.131037	5
遊ぶ	-0.09446	0.125619	5
尊敬	-0.09923	0.009273	5
大切	-0.10805	-0.0123	5
優しい	-0.10968	-0.0545	5
先生	-0.11714	-0.01675	5
家	-0.11884	0.029804	5
大人	-0.13335	0.039846	5
ほしい	-0.13732	0.059896	5
人間	-0.14843	0.025669	5
欲しい	-0.14968	0.148522	5
教える	-0.17237	0.115968	5

表4 Msct18 各語彙の主成分量

語彙	1次	2次	所属クラス
そば	0.588038	0.061073	1
心	0.56314	0.082487	1
暖かい	0.418634	-0.0948	6
身近	0.398487	0.100686	1
さみしい	0.385922	-0.05342	6
安らぐ	0.38116	0.382223	8
存在	0.375381	-0.25135	6
頼れる	0.30899	-0.04759	6
ほしい	0.258702	-0.07036	6
安心	0.157449	-0.11731	6
他	0.150824	0.03576	2
気持ち	0.103079	0.401018	3
大人	0.093187	0.001029	2
かあさん	0.092049	0.023014	2
大きい	0.079108	0.010381	2
かけがえ	0.076972	-0.09469	5
理解	0.075209	-0.03125	2
見守る	0.074941	0.03046	2
仲良い	0.074329	-0.00829	2
必要	0.047341	-0.09612	5
うるさい	0.045842	-0.0908	5
尊敬	0.042178	-0.04796	5
場所	0.03709	-0.06305	5
人間	0.035704	0.013757	2
大事	0.024615	0.114028	2
感情	0.020944	-0.01805	2
小さい	0.020854	0.060152	2
自分	0.017251	0.052774	2

一緒	0.016965	0.14321	2
不可欠	0.011777	-0.04572	5
困る	0.010024	-0.20954	7
愛情	0.008214	0.029704	2
イヤ	0.007783	-0.11712	5
子	0.006013	-0.02389	2
手本	0.004679	-0.01416	2
だっこ	0.003269	0.677415	3
大好き	0.00092	-0.07872	5
不安	-0.00309	-0.02754	2
欲しい	-0.00573	-0.01312	2
親	-0.0096	-0.01187	2
守る	-0.01287	0.105961	2
生活	-0.01858	0.097984	2
安らぎ	-0.02155	0.082871	2
信頼	-0.0216	0.091941	2
人	-0.02193	0.378792	3
幸せ	-0.02303	0.041713	2
大切	-0.02712	0.074451	2
優しい	-0.03083	-0.11067	5
がんばる	-0.0409	0.010529	2
厳しい	-0.04406	-0.06209	5
好き	-0.04628	-0.01792	2
唯一	-0.05133	-0.06183	5
感じ	-0.0514	0.036447	2
女性	-0.05867	-0.10073	5
友達	-0.05982	-0.1057	5
顔	-0.06304	-0.07586	5
子ども	-0.06721	0.388764	3
気持	-0.06962	0.56447	3
うれしい	-0.07388	-0.20822	7
楽しい	-0.07573	0.01752	2
多い	-0.07711	-0.05265	5
父親	-0.08659	-0.15308	7
親友	-0.09289	-0.14503	7
甘える	-0.0986	-0.16328	7
口うるさい	-0.10752	-0.00144	2
心配	-0.11128	0.020559	2
遊び	-0.13883	0.180917	4
話せる	-0.14591	-0.25946	7
遊ぶ	-0.17468	0.139517	4
こわい	-0.18389	0.063745	4
相談	-0.18693	0.129817	4
おこる	-0.18695	-0.12938	7
相手	-0.22025	0.194071	4
良い	-0.27426	0.009217	4
母親	-0.4567	0.06256	4

表5 SCT項目リスト

SCT項目No.	SCT項目(領域)
SCT01R_3	子どもの頃私は(Ⅲ)
SCT02R_1	子育ては(Ⅰ)
SCT03R_3	将来、私は(Ⅲ)
SCT04R_2	妻(夫)と私は(Ⅱ)
SCT05R_1	しつけ(Ⅰ)
SCT06R_1	子どもと私は(Ⅰ)
SCT07R_5	友人(Ⅴ)
SCT08R_4	母と私は(Ⅳ)
SCT09R_3	私が感情的になるのは(Ⅲ)
SCT10R_3	私はひとりであると(Ⅲ)
SCT11R_1	私にとって子どもは(Ⅰ)
SCT12R_1	子どもが生まれてから(Ⅰ)
SCT13R_5	仕事(Ⅴ)
SCT14R_1	子どもといると私は(Ⅰ)
SCT15R_1	妻(夫)と子どもは(Ⅰ)
SCT16R_3	私は男(女)として(Ⅲ)
SCT17R_2	私の居場所は(Ⅱ)
SCT18R_1	子どもにとって私は(Ⅰ)
SCT19R_3	思いどおりにいかないと(Ⅲ)
SCT20R_2	家にいると(Ⅱ)
SCT21R_2	妻(夫)が病気になると(Ⅱ)
SCT22R_1	子どもは私を(Ⅰ)
SCT23R_1	もしも子どもが(Ⅰ)
SCT24R_4	父と私は(Ⅳ)
SCT25R_3	困り果てたとき私は(Ⅲ)
SCT26R_1	子どもがいうことをきかないと(Ⅰ)
SCT27R_3	死ぬときは(Ⅲ)
SCT28R_3	暴力(Ⅲ)
SCT29R_1	子どもの気持ち(Ⅰ)
SCT30R_2	性生活(Ⅱ)
SCT31R_2	私にとって家族は(Ⅱ)
SCT32R_2	妻(夫)とふたりであると(Ⅱ)